

VOS アプリケーションと 2015 年 6 月 30 日のうるう秒

目次

[はじめに](#)

[CUCM](#)

[CUCM バージョン 8.0 以前](#)

[回避策 1 - 無効な NTP サーバの一時的使用](#)

[回避策 2 - ネットワーク アクセス コントロール リスト](#)

[CUCM バージョン 8.5 以降](#)

[Cisco Unity Connection](#)

[Cisco Unified IM & Presence \(および CUP \)](#)

[CUP バージョン 8.0 以前](#)

[CUP/IM&P バージョン 8.5 以降](#)

[CER](#)

[CER バージョン 8.0 以前](#)

[CER バージョン 8.5 以降](#)

[UCCX](#)

[UCCX バージョン 8.0 以前](#)

[UCCX バージョン 8.5 以降](#)

[Cisco Finesse](#)

[Finesse バージョン 10.0 以前](#)

[Finesse バージョン 10.5 以降](#)

[CUIC](#)

[CUIC バージョン 9.0 以前](#)

[CUIC バージョン 9.1 以降](#)

[Cisco SocialMiner](#)

[SocialMiner バージョン 8.6 以前](#)

[SocialMiner バージョン 9.0 以降](#)

[Cisco MediaSense](#)

[MediaSense バージョン 8.6 以前](#)

[MediaSense バージョン 9.0 以降](#)

概要

このドキュメントでは、シスコ コラボレーション製品で 2015 年のうるう秒についてを積極的に考慮する方法について説明します。天文時と原子時の正しい調整を保証するために、国際地球回転・基準系事業は、2015 年 6 月 30 日の 23 時 59 分 59 秒に協定世界時 (UTC) に余分な秒数を加算するように提唱していました。これは、1972 年以降で 26 回目のうるう秒調整であり、コン

コンピュータ、ネットワーク、およびソフトウェア ソリューションのプロバイダーにとって重要な考慮事項であることを示しています。

このドキュメントは、次のシスコ コラボレーション製品を対象とします。

- Cisco Unified Communications Manager (CUCM)
- Cisco Unified IM & Presence サーバ (または Cisco Unified Presence (CUP))
- Cisco Unity Connection
- Cisco Emergency Responder (CER)
- Cisco Unified Contact Center Express (UCCX)
- Cisco Finesse
- Cisco Unified Intelligence Center (CUIC)
- Cisco SocialMiner
- Cisco MediaSense

CUCM

ここでは、CUCM 製品への影響と予防措置について説明します。

CUCM バージョン 8.0 以前

CUCM がバージョン 8.0 以前を実行している場合は、アップストリームにある Network Time Protocol (NTP) サーバでうるう秒が発生したときにハングまたはクラッシュする可能性があります。Cisco Bug ID [CSCut25356](#) を参照してください。この問題を回避するには、次のどちらかの回避策を適用できます。両方の回避策で 6 月 30 日の 23 時 59 分 59 秒にうるう秒を挿入しないようにしますが、その直後に手動で同期する必要があります。

注: 両方の回避策で、NTP サービスを停止しておく必要があります。このサービスは、長時間実行しないように推奨されており、データベースのレプリケーションと IP 電話の時間表示に悪影響を及ぼす可能性があります。

回避策 1 - 無効な NTP サーバの一時的な使用

警告: この回避策は、サーバが VMware 上で動作している場合に、ライセンスを無効にします。したがって、この回避策は、パブリッシャ サーバが物理ホスト上で動作している場合にのみ推奨されます。

うるう秒の直前に、NTP を実行していないサーバを指している Publisher OS Administration ([Settings] > [NTP Servers]) に NTP 参照を追加します。有効な NTP 参照をすべて削除する必要があります。

うるう秒が過ぎたら、無効な参照を削除して、有効な NTP 参照を追加します。

utils ntp restart コマンドでこの変更を実施してから、クラスタ内のすべてのノードで NTP サービスを再起動する必要があります。

回避策 2 - ネットワーク アクセス コントロール リスト

うるう秒の直前に、ネットワーク アクセス コントロール リスト (ACL) を実装して、CUCM パブリッシャから発信された NTP 要求を宛先 UDP ポート 123 上でブロックします。

うるう秒の直後に、ACL を削除して、CUCM が NTP サーバと時刻を同期できるようにします。

CUCM バージョン 8.5 以降

バージョン 8.5 以降を実行している CUCM サーバでは、Publisher CLI で `utils ntp status` コマンドを入力して、サーバが NTP に正しく同期されていることを確認します。

バージョン 8.5 以降を実行しているサーバは、NTP サーバ アップストリームがうるう秒の間にその時間を更新するという前提の下で、うるう秒を正しく処理します。

サーバが NTP サーバに同期されていない場合は、CUCM Publisher OS Administration に有効な NTP 参照を追加することをお勧めします ([Settings] > [NTP Servers])。

CUCM サーバが NTP サーバに同期されておらず、Cisco Bug ID [CSCus88308](#) の修正プログラムを含むバージョンでない場合は、うるう秒の発生後に 1 秒進むことになります。この修正プログラムは、現在、次のバージョンで利用できます。

- バージョン 9.1(2)SU3
- バージョン 8.6(2)26159-2 (このバージョンを入手するには、Cisco TAC に連絡する必要があります)

Cisco Bug ID [CSCus88308](#) を解決するために、まだ、ソフトウェア メンテナンス中である CUCM のすべてのバージョンに対する "Unified Communications Manager / Cisco Unity Connection Time Zone Updates" 更新に Time Zone Update COP ファイルが掲載される可能性もあります。

Cisco Unity Connection

CUCM と Unity Connection は同じカーネル バージョンを共有しているため、CUCM の手順を参照してください。手順は Unity Connection でも同じです。

Cisco Unified IM & Presence (および CUP)

CUP バージョン 8.0 以前

CUP がバージョン 8.0 以前を実行している場合は、アップストリーム NTP サーバでうるう秒が発生したときにハングまたはクラッシュする可能性があります (Cisco Bug ID [CSCut25356](#))。この問題を回避するために、[2つの回避策](#) (CUCM の項) のどちらかを適用できます。両方の回避策で 6 月 30 日の 23 時 59 分 59 秒にうるう秒を挿入しないようにしますが、その直後に手動で同期する必要があります。

CUP/IM&P バージョン 8.5 以降

CUP および IM&P バージョン 8.5 以降は、Cisco Bug ID [CSCut25356](#) の影響を受けません。これらは、アップストリームの NTP サーバから通知されたときにうるう秒単位で更新します。NTP サーバに同期されていない場合は、Cisco Bug ID [CSCus88308](#) の修正プログラムがバージョン更新と Time Zone COP ファイルのどちらかに必要です。

CER

ここでは、CER 製品の影響と予防措置について説明します。

CER バージョン 8.0 以前

CER がバージョン 8.0 以前を実行している場合は、アップストリームにある NTP サーバでうるう秒が発生したときにハングまたはクラッシュする可能性があります (Cisco Bug ID [CSCut25356](#))。この問題を回避するために、[2つの回避策](#) (CUCM の項) のどちらかを適用できます。両方の回避策で 6 月 30 日の 23 時 59 分 59 秒にうるう秒を挿入しないようにしますが、その直後に手動で同期する必要があります。

CER バージョン 8.5 以降

CER バージョン 8.5 以降は、Cisco Bug ID [CSCut25356](#) の影響を受けません。これらは、アップストリームの NTP サーバから通知されたときにうるう秒単位で更新します。NTP サーバに同期されていない場合は、Cisco Bug ID [CSCut09811](#) の修正プログラムがバージョン更新に必要です。

UCCX

ここでは、Cisco UCCX 製品の影響と予防手段について説明します。

UCCX バージョン 8.0 以前

UCCX がバージョン 8.0 以前を実行している場合は、アップストリームにある NTP サーバでうるう秒が発生したときにハングまたはクラッシュする可能性があります (Cisco Bug ID [CSCut25356](#))。この問題を回避するために、[2つの回避策](#) (CUCM の項) のどちらかを適用できます。両方の回避策で 6 月 30 日の 23 時 59 分 59 秒にうるう秒を挿入しないようにしますが、その直後に手動で同期する必要があります。

UCCX バージョン 8.5 以降

UCCX バージョン 8.5 以降は、Cisco Bug ID [CSCut25356](#) の影響を受けません。これらは、アップストリームの NTP サーバから通知されたときにうるう秒単位で更新します。NTP サーバに同期されていない場合は、Cisco Bug ID [CSCut16832](#) の修正プログラムがバージョン更新と Time Zone COP ファイルのどちらかでうるう秒を考慮するために必要です。

Cisco Finesse

ここでは、Cisco Finesse 製品の影響と予防手段について説明します。

Finesse バージョン 10.0 以前

Finesse がバージョン 10.0 以前を実行している場合は、アップストリームにある NTP サーバでうるう秒が発生したときにハングまたはクラッシュする可能性があります (Cisco Bug ID [CSCut25356](#))。この問題を回避するために、[2つの回避策](#) (CUCM の項) のどちらかを適用できます。両方の回避策で 6 月 30 日の 23 時 59 分 59 秒にうるう秒を挿入しないようにしますが、その直後に手動で同期する必要があります。

Finesse バージョン 10.5 以降

Finesse バージョン 10.5 以降は、Cisco Bug ID [CSCut25356](#) の影響を受けません。これらは、アップストリームの NTP サーバから通知されたときにうるう秒単位で更新します。NTP サーバに同期されていない場合は、Cisco Bug ID [CSCut59282](#) の修正プログラムがバージョン更新と Time Zone COP ファイルのどちらかでうるう秒を考慮するために必要です。

CUIC

ここでは、CUIC 製品の影響と予防措置について説明します。

CUIC バージョン 9.0 以前

CUIC がバージョン 9.0 以前を実行している場合は、アップストリームにある NTP サーバでうるう秒が発生したときにハングまたはクラッシュする可能性があります (Cisco Bug ID [CSCut25356](#))。この問題を回避するために、[2つの回避策](#) (CUCM の項) のどちらかを適用できます。両方の回避策で 6 月 30 日の 23 時 59 分 59 秒にうるう秒を挿入しないようにしますが、その直後に手動で同期する必要があります。

CUIC バージョン 9.1 以降

CUIC バージョン 9.1 以降は、Cisco Bug ID [CSCut25356](#) の影響を受けません。これらは、アップストリームの NTP サーバから通知されたときにうるう秒単位で更新します。NTP サーバに同期されていない場合は、Cisco Bug ID [CSCut57780](#) の修正プログラムがバージョン更新と Time Zone COP ファイルのどちらかでうるう秒を考慮するために必要です。

Cisco SocialMiner

SocialMiner バージョン 8.6 以前

Social Miner がバージョン 8.6 以前を実行している場合は、アップストリームにある NTP サーバでうるう秒が発生したときにハングまたはクラッシュする可能性があります (Cisco Bug ID [CSCut25356](#))。この問題を回避するために、[2つの回避策](#) (CUCM の項) のどちらかを適用できます。両方の回避策で 6 月 30 日の 23 時 59 分 59 秒にうるう秒を挿入しないようにしますが、その直後に手動で同期する必要があります。

SocialMiner バージョン 9.0 以降

Cisco SocialMiner バージョン 9.0 以降は、Cisco Bug ID [CSCut25356](#) の影響を受けません。これらは、アップストリームの NTP サーバから通知されたときにうるう秒単位で更新します。NTP サーバに同期されていない場合は、Cisco Bug ID [CSCut69264](#) の修正プログラムがバージョン更新と Time Zone COP ファイルのどちらかでうるう秒を考慮するために必要です。

Cisco MediaSense

ここでは、Cisco MediaSense 製品の影響と予防手段について説明します。

MediaSense バージョン 8.6 以前

MediaSense がバージョン 8.6 以前を実行している場合は、アップストリームにある NTP サーバでうるう秒が発生したときにハングまたはクラッシュする可能性があります ([CSCut25356](#))。この問題を回避するために、[2つの回避策](#) (CUCM の項) のどちらかを適用できます。両方の回避策で 6 月 30 日の 23 時 59 分 59 秒にうるう秒を挿入しないようにしますが、その直後に手動で同期する必要があります。

MediaSense バージョン 9.0 以降

MediaSense バージョン 9.0 以降は、Cisco Bug ID [CSCut25356](#) の影響を受けません。これらは、アップストリームの NTP サーバから通知されたときにうるう秒単位で更新します。NTP サーバに同期されていない場合は、Cisco Bug ID [CSCut12363](#) の修正プログラムがバージョン更新と Time Zone COP ファイルのどちらかでうるう秒を考慮するために必要です。